

OCEAN

life 海とボートの雑誌  
オーシャンライフ Dec. 2011  
No. 489 12

1980年12月2日第3種郵便物認可  
2011年12月5日発行・発売  
(毎月10日前日発行・発売)  
第41巻第12号通巻489号

【本誌公式サイト】  
[www.oceanlife.co.jp](http://www.oceanlife.co.jp)

表紙写真:トヨタ・ボーナム35  
by ONUMA Hiroshi

# ホント登場! ボーナム35

Boat Impression

トヨタが贈る新型コンバーティブル「トヨタ・ボーナム35」に試乗、  
その実力と可能性を探る  
その気になるファーストイントプレッション!



Boat Impression

ゼウスの真骨頂! シーレイ450セダンブリッジほか

Crusing

瀬戸内紀航Part3 広島・宮島ロングクルーズ編

Boat Review

オーストリアの名門ビルダー

フラウシャーが送り出すヨーロピアンランナバウトの魅力

Power Boat Race

TOPS2011・第51回クラブ合同レース

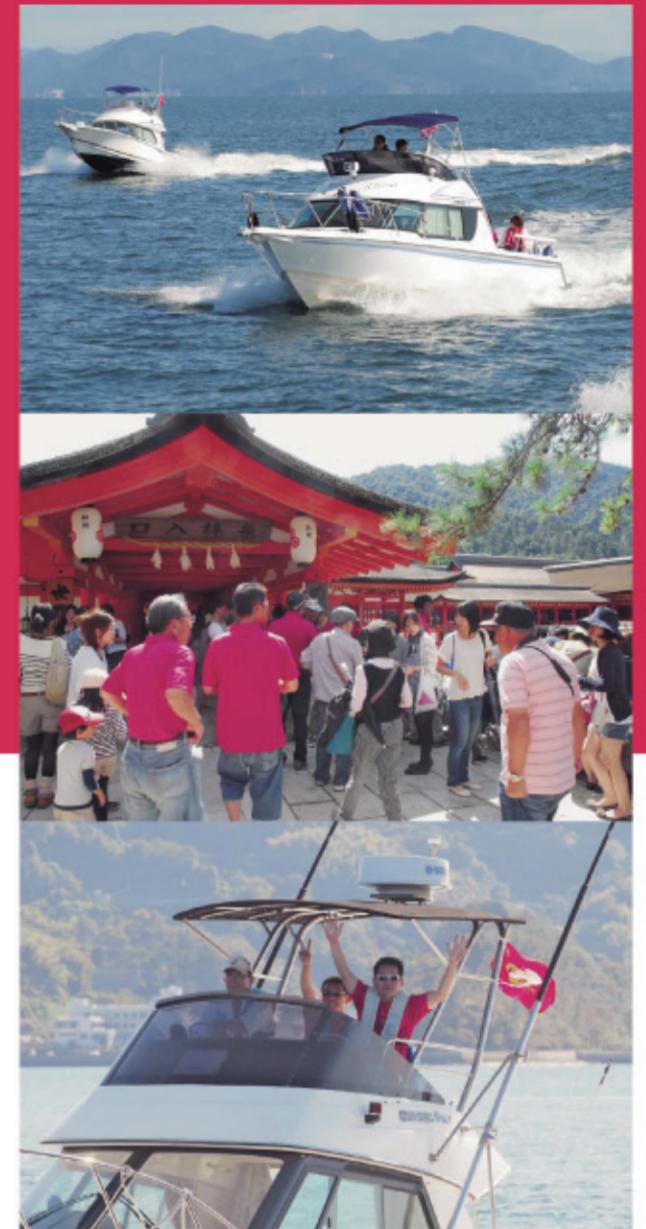
### 瀬戸内紀航 パート3 広島・宮島ロングクルーズ編

ポートクルージングの楽園ともいえる「瀬戸内海」で過ごす至福の日々……。以前2回にわたってご紹介してきた「瀬戸内紀航」、兵庫県姫路市を拠点とする(株)ヤマハ藤田がプロデュースする本企画も今回で3回目。今回は今までのものと違い、兵庫県たつの市から広島県・宮島を訪ねる二泊三日のロングクルーズとなった。その模様をお伝えしていこう。



天気晴朗、波風なし!  
瀬戸内海の深き懐に抱かれた  
最高の三日間

# 瀬戸内 紀航



今お送りする「瀬戸内紀航パート3」は弊誌2011年7月号、そして2011年9月号にてご紹介した一連の「(株)ヤマハ藤田プロデュース 瀬戸内紀航」シリーズの第三弾だ。今回は全行程二泊三日、兵庫県たつの市から広島県の宮島までというボリューミーなロングクルーズ!個人的にも経験したことがない行程である。期待にワクワクしながら当日に臨んだ。

実施したのは2011年9月23~25日。だが、当初は7月17(土)~18日(日)、一泊二日で行う予定だった。それがちょうど台風(台風6号)の影響を懸念し、大事を取って順延になっていたものである。そんな軒並みがあった中、「瀬戸内紀航パート3 広島・宮島ロングクルージング」は日程も内容もボリュームアップして行われたのである。

9月23日(金)、祝日となるこの日は朝からメチャいい天気。いつものパターンでヤマハ藤田・藤田忠久社長に迎えに来いていただき(スマセン)、集合場所のヤマハ藤田オーケマリーナに向かう。集合時間より少し早い8時に到着し、藤田社長は航海の安全を祈り、参加艇にお酒をかけて願をかける。天気予報では、3日間ともに良い天気かつ波・風ともに穏やかといいう。船団はブリゾ号を先頭に2列陣形で一路宮島を目指す。聞けば、船団航行の経験はあっても、長時間のロングクルージング経験者はほぼいないといいう今回の参加者の皆さん。最初はやや緊張した雰囲気も見受けられたが、さすがは瀬戸内でのボート遊びに通じている皆さんらしく、すぐにこちらが構えるカメラを見付けると手を振ってくれるほど余裕が出てきた様子。筆者の乗るブリゾ号でも、ヤマハ藤田

前で山口県の徳山マリン グリーンヤマトマリーナより出航したもう1艇と合流する予定。全行程での参加艇は6艇となる。9時少し過ぎに参加者たちは各艇に乗り込み、オーケマリーナを後にした。

この日は風・波ともにほとんどないという好コンディション。まさに「ベタ邱」の状態で、快適なクルージングを堪能する参加艇たち。船団はブリゾ号を先頭に2列陣形で一路宮島を目指す。聞けば、船団航行の経験はあっても、長時間のロングクルージング経験者はほぼいないといいう今回の参加者の皆さん。最初はやや緊張した雰囲気も見受けられたが、さすがは瀬戸内でのボート遊びに通じている皆さんらしく、すぐにこちらが構えるカメラを見付けると手を振ってくれるほど余裕が出てきた様子。筆者の乗るブリゾ号でも、ヤマハ藤田



ヤマハ藤田オーケマリーナに集合した参加者は、今回の航路やタイムスケジュール、そして注意点をレクチャーされる。



出前準備も整い、9時を少し過ぎた頃にオーケマリーナを出港する各艇。ヤマハ藤田スタッフの皆さんが見送ってくれた。



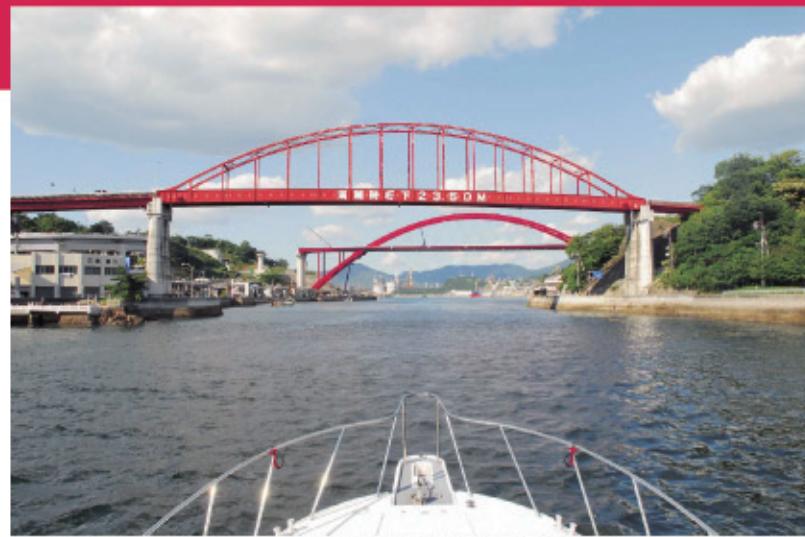
天気も良く波、風ともに波なしという好コンディション。オフィシャル艇「ブリゾ」号の皆さんもリラックスした面持ちだ。



瀬戸大橋の手前頃から海上自衛艦としばしランデブー航行を楽しむ。後に調べたら、潜水艦救援艇だそう……。



「ブリゾ」号を頂点として2列編隊で船団航行を行なう。前を行く船の引き波をうまく避けての航行によく慣れてきた頃?



橋が約90mしかないという極狭の海峡「音戸の瀬戸」に到達。船舶の航行も少なくないので、ここでは1列編隊でスロー航行を行う。



山口県から参加の「フェニックスII」高藤弘樹さんご一行と無事にランデブー成功!サンシーカー48、キレイな船ですねえ……。

島々が多くなってくると、定期航路の就航船と行き交うシーンも増えてくる。お互いの航路に注意して慎重に進む。



初日のメイン目標でもある宮島・嚴島神社前にて、参加船で並んでの記念撮影を行う。水深がけっこう浅いので大型船はヒヤヒヤ!



最初の寄港地、グランドプリンスホテル広島の桟橋へと向かう一行。初日の行程もあとわずか、ラストストップです!!



無事に寄港地に到着!!燃料補給を待つ間にホット一息づきさん、「龍馬」号の皆さん、初の船団航行はどうでした?



鴨川工場長は休む間もなく参加艇のパワステベルト交換や「ブリゾ」号のインベラー交換など大忙します。いろいろスマゼン!



待ちに待ったディナータイムです。さすがにお疲れの様子ですが良い天気で皆さん顔の色も良い感じに帰ってますね!

だ。16時30分過ぎに桟橋に到着、船団は無事にこの日の行程を終了できた。隣接する広島ベイマリーナで給油等を順序良く行い、参加者の皆さんはホテルにチェックイン。さすがに疲れた様子が見えるが、無事に着いたという安堵感、そして長い行程を走り終えた充足感が感じられた。ヤマハ藤田スタッフは各艇を舫ったりとまだまだ大忙し。事故などもなくトラブルも1艇がパワステベルトを破損させただけ(ヤマハ藤田メカニック・鴨川工場長が同行しており、迅速・適切に破損個所を確認し広島ベイマリーナにパーツを注文、寄港後すぐに新しいものと交換できた)。まずは一安心と藤田社長はじめスタッフ

スタッフによる操船体験レクチャーや流れる景色を楽しんだりと、思い思いに時を過ごしている。

30分ほど航行した頃だろうか、淡路島から出発した参加艇「龍馬」号(ヤマハY-31)が合流、5艇で宮島を目指して艇を進める。10時15分に牛窓付近、そして10時30分頃には土庄付近を通過。行程は順調のようだ。11時15分、全艇一時ストップしてトイレ休憩をとる。各艇ともにまだ疲れは見えず、モチベーションもバッチリな様子がうかがえる。そして航行再開、ほどなくして瀬戸大橋を通過する。何度も橋を渡ったことはあったが、海上から見るのは初めてなのでけっこう興奮したりし

て(笑)。その後も順調に5艇は航行を続ける。13時を過ぎた頃からだらうか、大小さまざまなサイズの島々がひっきりなしに見えるポイントに到達する。その景色がまた美しく素晴らしい。これが俗にいう「多島美」というやつなんだ……。実は筆者、この海域を航行した経験がなく初めての景色について見とれてしまった。国内はもとより、海外のボートユーザーも注目する理由のひとつはこの景色の素晴らしい。そう藤田社長は語った。

15時過ぎ、一行は「音戸の瀬戸」に到達する。ここは本州(広島県呉市)と倉橋島の間、幅約90mという狭い海峡である。ここは航行する船舶も多いので、船団は1列になって徐行する。ちょっとだけ緊張したが、無事にここも通過。このあたり



宮島港の桟橋にて。ちょっとペタですが参加者の皆さんで記念撮影をしてみました。うへん、まさに「オトナの修学旅行」といった感じで良いです!!



宮島港の桟橋は狭いため、選択した2艇に分乗して向うこととする。パウデックに座るのは「RIMA」号の皆さん、気持ち良さそう!!



宮島のそこかしこにいるシカはすっかり慣れっちゃって、我々にもすり寄つてくれる。ゴメンね、キミたちのエサは持っていないんだよねえ……。

の皆さんも安堵の笑顔を見てくれた。

ようやく給油・係留作業も終わり、我々もホテルに入るともう夕食の時間。同ホテルの22階にあるレストランでフレンチ・ディナーに舌鼓を打ちつつ、各参加艇のキャプテンから自己紹介がなされる。途中合流した2艇の参加者の皆さんは今回が「はじめまして」。でもすぐに打ち解け、なごやかに盃を交し合うのはシーマンシップの賜物であろう。これもまた、参加者を「楽しいムード」に巻き込む術に長けるヤマハ藤田マジックというか、参加する皆さんもよく分かっているご様子でどんどん楽しいムードを作り、宴を盛り上げてくれる。心地良い疲れは美味しい食事とドリンク、そして楽しい会話で癒され、笑顔の輪は

どんどん広がっていった。

9月24日(土)、今日も天気晴朗、波・風ともになし。最高の海況に思わず笑みが浮かんだ。この日は宮島に上陸して厳島神社にて祈祷を受け、そして宮島観光を楽しんだ後、宿泊地となる広島県福山市・境ガ浜マリーナを目指す。宮島港では係留スペースが狭く、ここでは2艇に分乗して出発。宮島に行かない人はホテルで過ごしても良いといつづりプランだったが、ほぼ全員が宮島に向った。

宮島参拝は今回の目的のメインだとう藤田社長。実は宮島・厳島神社が祭神とする宗像三女神は海の神であり、また航海の神とも称される。海上交通の神と

しては香川県の金刀比羅宮が有名だが、厳島神社もまた同様に海関係に従事する人たちが多く訪れ、参拝する神社でもある。「だからこそ、今回のクルージング参加者の皆さんをお連れしたかったんですよ」と藤田社長はその思いを話してくれた。また厳島神社は他になかなかない海を敷地とした社殿の配置構成や、海に建立される大鳥居などはユネスコの世界文化遺産に認定されている。観光地としても一級地であり、そこを皆んなで訪れるというのもなんだか「非日常的」で良いなあ、なんて思いつつ2艇はあっという間に宮島港に到着、艇を航って厳島神社に向かった。祈祷は11時10分より行われた。厳粛な儀式に付き撮影はNG、筆者も皆さ



ここで泊りになるという「フェニックスII」高藤さんご一行を見送る。ぜひまた機会があったら遊びましょう!!



「鏡」の村井オーナーも素敵な笑顔を返してくれました! 船頭航行にもすいぶんと慣れてきたご様子、素晴らしいデス!!



「Venus」(ヤマハPC-28)を運ぶのは中野オーナー。PC-27からチエンジしたばかりということで、今回が初ロング!!



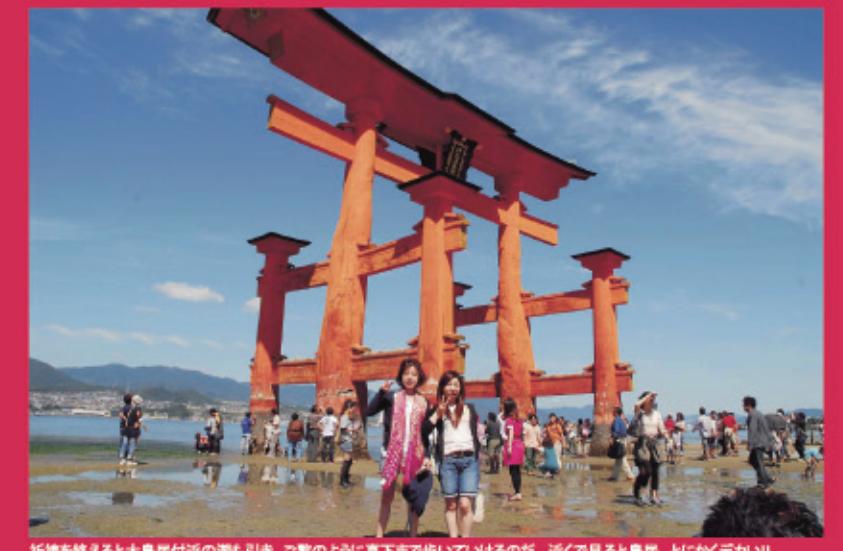
16時30分、無事に2日目の寄港地、境ガ浜マリーナ(広島県福山市)に到着。ロケーションも良い感じのマリーナです。



さっそくフェンダーをつけたり、防いロープを出したりと大忙しなのは「RIMA」号の津村オーナーです!



ペラビスタ境ガ浜での夕食は地の物をふんだんに使った和食! 初日の疲れも癒え、お酒もお酒も何んど盛り上がる事!



祈祷を終えると大鳥居付近の潮も引き、ご覧のように真下まで歩いていいのだ。近くで見ると鳥居、とにかく大きい!!



厳島神社での祈禱、そして楽しかった宮島観光を終え、宮島港の桟橋に戻ってきた一行。もうちょっと時間があつても良かった!?



ホテルの桟橋に戻る前に、もう一度大鳥居前で記念撮影を行う。皆さん、良い笑顔ですねえ、ホント。

んと一緒に祈禱を受ける。あつという間だったが、何だか身が引き締まる思いがした。これで今回のクルージングも無事に終えられることだろう、海上交通の神様のご加護があるんだから……。

その後は潮が引いて直下まで歩けるようになった大鳥居の下に行ったり、参道

の土産物屋さんなどを物色したり。3連休の中日とあって、宮島は観光客でいっぱい。ベタな観光ではあるが、大人になってからはこういうことってあまりしていない。そんな意味では新鮮に感じてとても楽しい。気分は「オトナの修学旅行」である。そして、のんびりとした雰囲気は参加



者の皆さんにとっても昨日の疲れを癒す良いひとときになったようだ。もともとの予定では今回のクルージングは一泊二日の行程であり、内容は宮島参拝して宿泊、そして帰るという強行軍だった。だが順延となった時点で内容をさらに吟味し今回のカタチとした。これは大正解だったようで、皆さんもすっかり「旅・観光」を満喫しているように筆者には見えた。

楽しいひとともひとまずお開き。宮島を後にしてホテルの桟橋に戻り、また各艇に乗って次なる目的地を目指すのだ。山口県より参加したフェニックスII号の高藤弘樹さんご一行がここで帰ることになっており、名残り惜しいが桟橋でお別れとなつた。日帰りクルージングの経験はあったが、今回のような泊りだけは初体験という高藤さん。厳島神社での待ち合わせや、船団航行も初めて。そして他の参加者とも「初めまして」と初づくしだったが交流なども楽しくさせてもらいましたと感想を語

ってくれた。また機会があれば声をかけてほしいとのことなので、きっとまた一緒にボート遊びをすることになるのではないか、なんて思いつつ見送った。

残った5艇はこの日の目的地、広島県福山市の境ガ浜マリーナを目指して出發した。時刻は14時少し過ぎ、目的地までは2時間ちょっとの行程である。すっかりリフレッシュできた参加者たちは走る気満々といった感じでキビキビと艇を航行させる。船団航行にも慣れた様子で、昨日とは明らかに走り方が違っているように見えた。もちろん海況も昨日以上に「ベタベタ」で走りやすかったらもう……。

そこかしこに点在する島々が織りなす風景を見ながらの航行はとても楽しく、あつという間に境ガ浜マリーナに到着、時刻は16時30分とホントに予定通りコトが進んでいる。各艇ともに給油をし、マリーナから少し上がったところにある「ベラビスタ境ガ浜」にチェックインをする。ここ特

徴は風光明媚なロケーションと、流れる空気、そして時間がとてもゆったりとしていることだろうか。落ち着いた雰囲気と上質のサービスはマリーナも含め、まさに「大人の隠れ家」。参加者の皆さんもこの雰囲気に大変満足した様子で、夕食(地のものを主体とした和食)も大いに盛り上がった。参加者の中の独身の男女をそれとなく(笑)カップルにしゃちゅうとう、大人たちはあれこれ画策し、そしてイッパッたり……。当人たちもそれほど嫌がる様子も見せず、身をゆだねる「オトナの対応」で応酬したり?この日の宴も和やかに終了した。

9月25日(日)。最終日となるこの日はお昼前にチェックアウト予定。午前中はホテルステイをゆっくりと堪能した。ホテルの園庭から眺める景色は最高で、朝風呂に入るも良し、エステなどをするも良しとゆったりとしたひとときを過ごした。一行はその後マリーナに集合してそのカフェで

ランチを堪能。そして12時30分、後ろ髪を引かれる思いで境ガ浜マリーナを後にする。皆さんもこの地のひとときが思い出深かった様子で、「とても良かった」と異口同音に感想を語っていた。

筆者の乗る「リゾ」号が出発しようとしていた時。すでに桟橋を離れた「RIMA」号(トヨタボーナム28GII)のクルー・梶田明巳さんが桟橋を走ってこっちに向かってくる。梶田さんは一昨夜、そして昨夜の宴で脚光を浴びた「独身男性」で、もう一人の「独身女性」がリゾ号に乗っているために「そっちに乗れ!」と置いていかれたようだ(爆)。まったくお茶目な大人たち(笑)。当人同士はいたってフツーなんですけどね……。そんなハプニング

がありつつ、船団はゴール地点を目指して順調に航行する。昨日より天候は少し下り坂で太陽は雲に隠れがち、そしてほんの少しだけ波も出てきたようだ。それでもまったく走りに支障はなく、各艇とも快調に進む。リゾ号ではヤマハ藤田・小國真城子イベントマネージャーがステアリングを握り走りも絶好調(ペーパーキャプテンのよう)(笑)、藤田社長＆美馬泰範教官が両脇をがっちりサポート!途中、リゾ号のゲストクルー・柳田栄幸さんと武内智子さん、長谷川陽子さんが軽食を作つ差し入れてくれ、非常にのんびりムードで航海を楽しむ。藤田社長のゴルフ仲間という柳田さんはボート免許を取つまだ1年経っていないというが、ヤマハPC-27を所有

して普段は釣りやクルージングなどを楽しんでいるという。まだボート遊びは模索中のことだが、今回のクルージングはとても刺激になったようで、次回はマイボートで参加したくなつたと感想を語ってくれた。そして武内さん、長谷川さんのお二人もこういったクルージングは初体験だったようで、非日常的な時間がとても楽しかったという。これでまた、瀬戸内海＆ボートの魅力に深く魅了された人が増え、ヤマハ藤田の恩感とおり巻き込み型の輪がさらに大きくなっていく。もちろん、その輪の中に筆者もすっかり浸っている。ゴール地点が近づくにつれ、「この時間がもっと続けばいいのに……」などと考えてしまうのだった。



無事にオーケマリーナの桟橋に到着!! 時刻は16時30分、これまた計ったかのような予定通りの帰着でした。



「龍馬」号の皆さんとのランデブー航行もここで別れ。我々の停港後、ほどなくして「無事帰港しました」との連絡が!



「龍馬」号の皆さんとのランデブー航行もここで別れ。我々の停港後、ほどなくして「無事帰港しました」との連絡が!

しかし、そんな思いはもちろん届くこともなく、現実に引き戻される時間は着実に近づいてきた。ゴール手前で別地に艇を置く「龍馬」号ともお別れの時間が迫ってきた。キャプテンの村井清二さんは21歳でヨットを始め、現在の艇(ヤマハY-31)で7艇目というベテランシーマン。だが今回のようなロングクルーズ、そして船団航行は初めてだったようで最初は戸惑っていた様子も見受けられたが、最後には見事な船団航行を見せベテランぶりを發揮していた。いつもは釣りメインというボートライフだが、初めての体験も多く、最高でしたという感想を語り、15時25分に我々と別れ、帰路に就いた。

そして、残った4艇もオーケマリーナに無事到着、時刻は16時30分とこれまた予定どおりに終了した。全艇事故やトラブル



ヤマハ藤田のテラスにて、しばしクルージングの疲れを癒す一行。皆さん、「無事にやり遂げた」という感じの良い笑顔をしていますね! お疲れ様でした!!



最後に……こちらがディナータイム時にさんざん「いじられていた」お二人です。本当のところ、どうなんですか? なんて(笑)。

もなく、そして天候や海況に影響されることなくすべてが予定どおりに終了でき、藤田社長をはじめとするヤマハ藤田スタッフの皆さんも安堵の表情を浮かべている。そして何より、参加した皆さんのが満ち足りた笑顔、これこそが今回のクルージングのすべてを物語っているのではないかと筆者には思えた。素晴らしい経験をさせていただいた参加者の皆さん、そして藤田社長をはじめとするヤマハ藤田スタッフの皆さん、寄港地でお世話になった皆さん、最後にすばらしいロケーションで迎えてくれた瀬戸内海に、感謝!!

文と写真=大沼 寛  
by ONUMA Hiroshi

取材協力/(株)ヤマハ藤田、広島ベイマリーナ、  
グランドプリンスホテル広島、境ガ浜マリーナ、  
ペラビスタ境ガ浜、ほか

Special Thanks!! ~お世話になりました~

### 広島ベイマリーナ

[ADD] 広島県広島市南区元宇品町42-16  
[TEL] 082-256-6135  
[URL] [hiroshima-baymarina.jp](http://hiroshima-baymarina.jp)



今回、初日の行程でお世話になったのは広島ベイマリーナだ。給油はもちろん、クルージングの際に破損したパワステベルトも事前連絡で在庫があり、早急の対応をしていただいた。ボート販売は新艇・中古艇幅広くなど扱っている。そしてレンタルボートも取り扱っており、広島方面のマリンライフをバッチリサポートしてくれるのだ。

### グランドプリンス ホテル広島

[ADD] 広島県広島市南区元宇品町23-1  
[TEL] 082-256-1111  
[URL] [www.princehotels.co.jp/hiroshima](http://www.princehotels.co.jp/hiroshima)



初日に艇を舫ったのは、グランドプリンスホテル広島が管理する桟橋だ。宿泊する場合は係留無料とのことで、非常にありがたい存在。係留隻数も21隻と多いのもポイント。ただし係留等は事前に予約を入れておいた方が確実であろう。温泉やスパをはじめ、船旅の疲れをいやす施設が多数あるのもうれしい。我々も快適な一夜を過ごすことができたのだ。

### 境ガ浜マリーナ

[ADD] 広島県福山市沼隈町常石1083  
[TEL] 084-987-3460  
[URL] [www.sakaigahama-marina.jp](http://www.sakaigahama-marina.jp)



2日目に係留させていただいたのは境ガ浜マリーナだ。現在桟橋の補修工事も行っており、50ftクラスの大型艇の係留や、ビジャー用桟橋も広ぐるという。2012年初頭には完成とのこと。また、サイクルキャリアを艇に搭載し、小さな島に上陸してサイクリングも楽しむという「サイクルクルージング」なども行っている。寄港にも最適なマリーナなのだ。

### ペラビスタ境ガ浜

[ADD] 広島県尾道市浦崎町大平木1344-2  
[TEL] 084-987-1122  
[URL] [www.bella-vista.jp](http://www.bella-vista.jp)



2日目の宿泊先となったのがペラビスタ境ガ浜。境ガ浜マリーナから少し上がった丘の上にある瀧酒なたずまいを見せるリゾートホテル。瀬戸内の食材を使った食事や温泉＆スパ、リラクゼーション施設など、静かに流れる時間とリゾート気分を楽しめる。海を望む園庭で行うホテルウェディングや境ガ浜マリーナと連携した宿泊者向けクルージングオプションプランも好評を博す。

### (株)ヤマハ藤田 オーケマリーナ店

[ADD] 兵庫県たつの市御津町刈屋1131-1  
[TEL] 079-322-8800  
[URL] [www.seasea.jp](http://www.seasea.jp)



左:新たに設けられたウェイティングスペース。パックに植えられているのはヤシの木!  
右:ブランコは子どもたちが遊べるナイスアイテム! 和みます!!

瀬戸内紀行パート3  
オーナーインタビュースペシャル!!

## 澤村里麻さん

瀬戸内紀行パート1にも参加し、今回も一緒にさせていただいたのがトヨタボーナム28GII「RIMA」号を駆るオーナー・澤村里麻さんだ。だんな様(恥ずかしいので名前はご勘弁ですって!?)がオーナーではなく、あくまで里麻さんがオーナー&キャプテンで、だんな様はクルーなのだとか。ご夫婦と、そしてボート仲間(今回は中井通明さん、梶田明巳さんが同乗)といつも仲良くボートを繰り出して様々な遊びを楽しむアクティブな奥様である。お二人そろって海が大好きで、愛犬家である里麻さんご夫妻は4匹の愛犬(うち1匹はボーナムをもじってボナムちゃんという)とともに暮らすが、彼らを伴ってのクルージング(よく行くスポットは小豆島の「シータイガーアイランドイン」で、犬もOKなのがお気に入りとのこと)をボート遊びのメインイベントとしている。また「RIMA」号の他にマリンジェットも所有、夏場はボートorジェットと毎週のように海に出るのが日常なのだと。愛艇とは買って1年ほどの付き合いというが、その前もボーナム28に1年乗り(エンジン故障で乗り換えたとのこと!)現在に至っている。免許取得時の練習艇がボーナムだったといい、FB艇であること、カタチのキレイさ、そして計器類がデジタルなことなどがお気に入りで「コレじゃないと惚れ込んでいた。もちろん走りや乗り心地などにも満足しているとのことで、まだまだ「RIMA」号でのボートライフを満喫する予定と語ってくれた。

ヤマハ藤田のクルージングイベントにはほとんど参加しているという里麻さんご夫妻。今回ほどのロングクルージングは未経験というが、だんな様の趣味であるヒストリックカーのラリーなどにもお二人で参加し、10時間乗りっぱなしなんていうこともザラというご夫妻にとっては6時間の行程も「へっちゃら」とのこと。筆者も広島～境川浜までの行程を同乗させていただいたが、実に楽しそうに操船していたのが印象的だった。寄港の際の準備、フェンダー装着やロープの装着などもテキパキと行き、今回が初ボートというクルーの方



への指示も無駄なく行ったりとシーマンならぬシーワーマンといった感じの里麻さん。だんな様も「こういうことを全然嫌がらないから良いですよ」と語る。まだまだボート＆マリンの世界は男性メインで、奥様や彼女同伴で海に出ることはあっても、操縦はおろか、帆い取りまでも一緒に楽しむ女性はそう多くはない。里麻さんのように積極的にボートを楽しんでいるのはとても素晴らしいことに思えた。

きっとこれからも里麻さんご夫妻は夫唱婦隨のマリンライフを送っていくことだろう。ボートライフと一緒に楽しめるなんて、だんな様がとてもうらやましいなあ……。



### 瀬戸内紀航パート3 参加艇ダイジェスト!!

